

# 令和7年度 長崎県立時和特別支援学校西彼杵分校 学校関係者評価 報告

## 1 評価の実施期日・場所等

- ・令和8年2月20日(金) 13:00~14:30
- ・時和特別支援学校西彼杵分校 高等部棟(西彼杵高等学校内)

## 2 学校関係者評価委員

- ・学校評議員3名(兼務)と西彼杵分校PTA会長1名の計4名が全員出席。

## 3 学校関係者評価の内容

### (1) 自己評価の結果について

- ・次年度の児童生徒数について、評議員から質問があり、校長が増加傾向にあることを説明した。また、小中学部では、増加に伴い、教室数確保が今後の課題になる可能性があることも併せて説明した。
- ・「児童生徒数はまだ少ないが、学校評価の結果や授業参観の様子から、質の高い教育が実践されていると感じた。」との意見があった。
- ・委員会中ではなかったが、開始前に評議員から学校評価の結果が良好であることへの称賛をいただいた。

### (2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

- ・「保護者への教育活動の発信の充実化に関する改善策」に対して、福祉関係の評議員から「家庭と学校が連携していくことが重要である。」との助言を受けた。また、学校教育と家庭教育が深まることで、児童生徒の生活力が高まっていくだろうとの進言があった。
- ・地域内(西海市)では、今年度開校した西彼杵分校であるため、まだ認知度は高くないと思われるので、今後、発信の充実化によって、児童生徒数も増えていくのではないかとの示唆があった。

### (3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- ・学校重点目標の設定や自己評価の評価項目に関する直接的な意見等はなかったが、「学校経営方針に関する総括」や「各部の学部目標に関する総括」、「学校評価に関する総括」の説明に対して、十分に理解してもらうことができた。

### (4) 学校運営の改善に向けた実際の取組について

- ・地域とのつながりを広げていく取組に関して、地域の代表である評議員から、今後、必要に応じて地域の情報提供をいただけるとの助言を受けた。
- ・少人数の学校であるため、その分、手厚い教育が実践されていると感じたとの意見があった。
- ・児童福祉に携わっている評議員から、地域とのつながりを充実させていく改善策に対して、5年から10年後を見据えると、西彼杵分校が地域の中での障害福祉のシンボリック役割を担っていくだろうとの示唆があった。また、評議員自身も、今後「家族支援」に注力していくことで、学校環境、生活環境の改善を学校と一緒に働きかけていきたいとの意見があった。
- ・保護者代表の委員から、今年度、保護者の悲願であった小中学部が開設され、手探りながらも、学校運営が円滑になされていると感じたとの意見があった。今後も、保護者と一緒に悩みながら、歩みを進めてほしいとの意見があった。さらに、高等部を卒業すると、ある意味、厳しい社会生活が始まるので、学校生活の中で、「厳しさとやさしさ」を児童生徒に味わわせてほしいとの進言があった。